

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-30C	12-007	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)		
A meta-analysis of alcohol consumption and the risk of brain tumours. 飲酒と脳腫瘍に関するメタ分析		
執筆者		
Galeone C, Malerba S, Rota M, Bagnardi V, Negri E, Scotti L, Bellocco R, Corrao G, Boffetta P, La Vecchia C, Pelucchi C.		
掲載誌		
Ann Oncol. 2012 Oct 5. [Epub ahead of print]		
キーワード		
飲酒、脳新生物、グリオーマ、メタアナリシス、		
要 旨		
背景： アルコールは血液脳関門を通過するため、脳腫瘍の危険因子の可能性はある。しかしながら、近年の疫学研究の結果は一致していない。		
方法： Medline と EMBASE においてシステマティックな文献検索を実施した。19 の研究において飲酒量ないしアルコール種類のリスクが推定されていた。ランダム効果モデルを用いて相対危険度 (RR) と 95% 信頼区間 (CI) の推定統合値を求めた。		
結果： 非飲酒者に対する飲酒者の脳腫瘍の統合 RR は 0.97 (95% CI 0.82-1.15; 12 の研究に基づく)、中程度飲酒 (<2 飲酒単位/日) と 多量飲酒の RR は、それぞれ 1.01 (95% CI 0.81-1.25)、1.35 (95% CI 0.85-2.15)、であった。アルコール種類については、ワインの RR は 1.01 (95% CI 0.70-1.48)、ビールは 0.96 (95% CI 0.82-1.12)、スピリッツでは 1.20 (95% CI 1.01-1.42) であった。非飲酒者に対する飲酒者の RR は グリオーマ 0.93 (95% CI 0.81-1.07)、メニンジオーマ 0.71 (95% CI 0.45-1.12) であった。		
結論： 飲酒が成人の脳腫瘍リスクと関連するという明確な結論は得られなかった。多量飲酒の影響については更なる研究が必要である。		